

1 気象概況（7月前半：果樹研究所）

7月前半の平均気温は、1半旬が21.7℃で平年より0.1℃低く、2半旬が23.1℃で平年より0.7℃、3半旬が24.9℃で平年より1.8℃高く、この期間の降水量は155.5mmで平年の161%でした。

2 土壌の水分状況（7月15日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.2で適湿、40cmが1.2でやや過湿、60cmが1.7で適湿状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（7月15日現在 暦日比較）

「あかつき」の縦径は59.9mmで平年比109%、側径が64.2mmで平年比113%、「ゆうぞら」の縦径は49.9mmで平年比102%、側径が47.9mmで平年比106%と各々平年より大きい状況です。

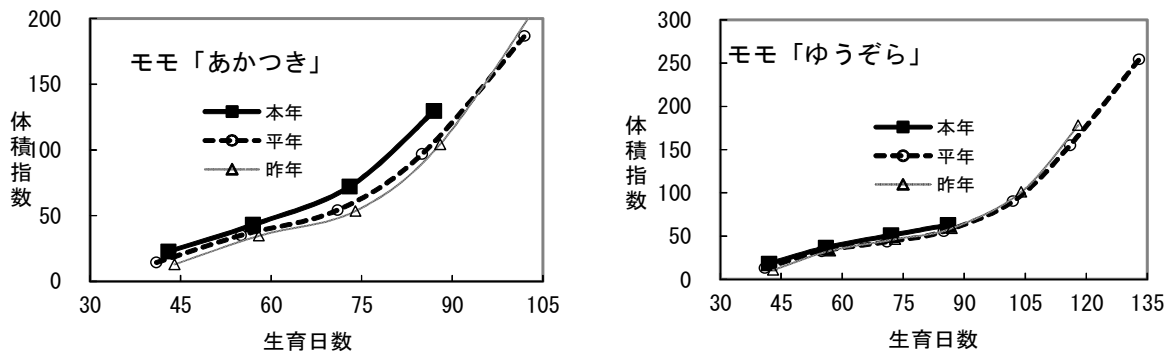


図1 ももの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長（満開後80日 品種：あかつき）

新梢長は平年比65%と短く、展葉数は平年比83%と少なく、葉色（SPAD値）は平年比96%とやや淡く、新梢停止は早い状況でした。

ウ 核障害の発生（満開後85日 品種：あかつき）

核頂部の亀裂の発生率は35%で平年より少なく、縫合面の割裂の発生率は50%で平年より多い状況でした。

エ 収穫期予測（7月15日現在 品種：あかつき）

DVRモデルによる収穫期の予測では、収穫開始は8月1日頃、収穫盛りは8月5日頃と平年より1日早いと予測されます。

オ 早生品種の収穫期

「ちよひめ」の収穫開始は7月3日で平年より2日早く、収穫盛りは7月8日で平年並、果重は237gで平年より大きく、糖度は10.3%で平年並でした。

表1 もも「あかつき」の発育予測（7月15日現在）

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/8	6/11	3日早い	8/1	8/2	1日早い	8/5	8/6	1日早い

※ 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2012年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大 (7月15日現在 暦日比較)

「幸水」の縦径は45.2mmで平年比116%、横径が54.4mmで平年比116%、「豊水」の縦径は46.3mmで平年比116%、横径が52.0mmで平年比120%と各々平年より大きい状況です。

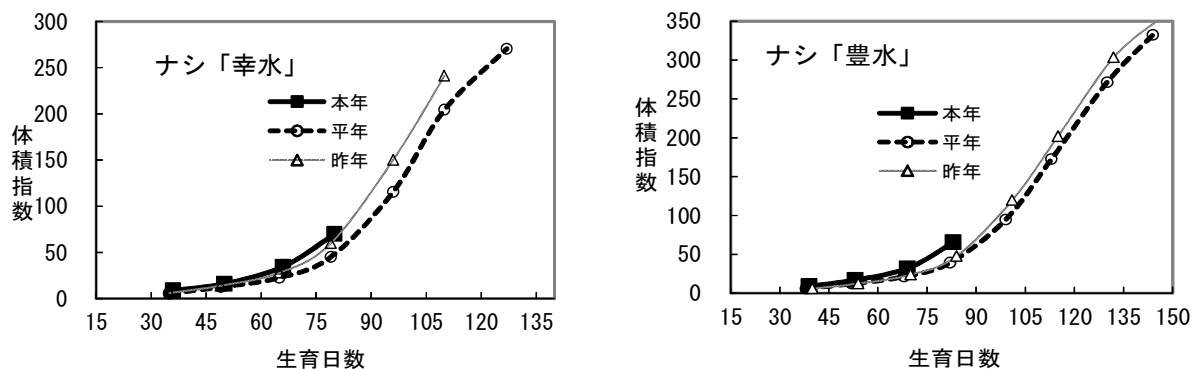


図2 なしの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 新梢生長 (満開後70日 品種: 幸水)

予備枝新梢長は112.5cmで平年比103%と平年並、不定芽新梢長は88.7cmで平年比94%と平年よりやや短い状況でした。

ウ 裂果の発生 (品種: 幸水)

裂果の初発日は7月14日 (満開後79日) で平年より1日早い状況でした。

エ 収穫期予測 (7月15日現在 品種: 幸水)

DVRモデルによる収穫予測では、収穫盛期は8月31日頃 (満開後127日) で平年より2日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大 (7月15日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は57.3mmで平年比100%、横径が67.2mmで平年比103%、「ふじ」の縦径は54.1mmで平年比105%、横径が60.9mmで平年比110%と各々平年より大きい状況です。

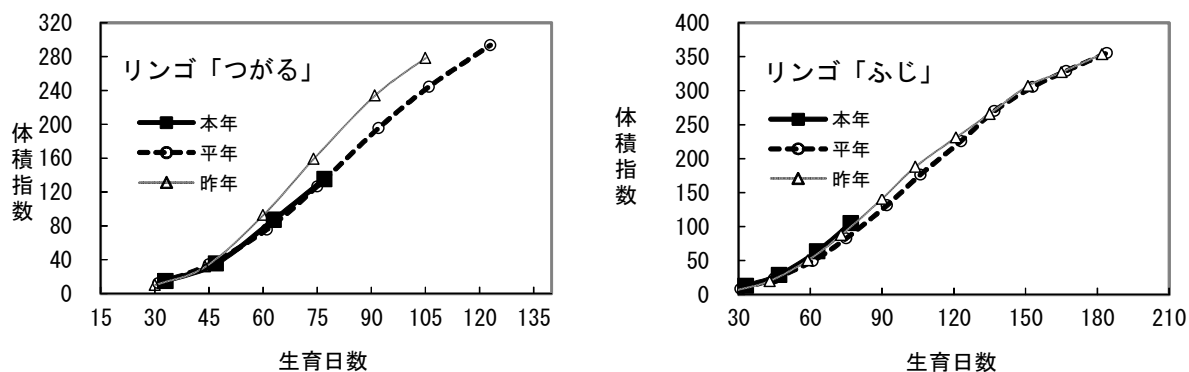


図3 りんごの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 新梢生長 (品種: ふじ)

新梢伸長は満開後50日までに停止し、平年よりやや遅れました。また、満開後70日の時点で、一部の樹に二次伸長がみられました。

## 東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成26年7月10日発表)

今後の気温の経過は、1週目（7月12日～7月18日）は高い確率が80%、2週目（7月19日～7月25日）は低い及び平年並の確率が各々40%、3～4週目（7月26日～8月8日）は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

### ○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

## 4 栽培上の留意点

### (1) も も

#### ア 早生品種の収穫

早生品種は核割れ果を中心に果肉先行の傾向となっています。地色や果肉の軟化に留意し収穫が遅れないように注意しましょう。

#### イ 中生品種の収穫前管理と収穫

「あかつき」等の中生品種はまもなく着色期に入ります。収穫に向け、夏期せん定、枝つり、支柱立て、反射シートの敷設等、管理作業は計画的に実施しましょう。

なお、核障害果（変形果、異常着色、縫合線の裂果など）等の発生が多い園では、修正摘果・樹上選果を丁寧に行い、製品率の向上を図りましょう。

### (2) な し

#### ア 新梢誘引

現在、新梢誘引の適期となっています。新梢誘引は受光体制の改善や防除効果の向上、結果枝の棚付け時の軽労・省力化のため重要な作業ですので、丁寧に実施しましょう。

また、「豊水」の新梢は湾曲したり下垂しやすいことから、誘引により枝の重なりを回避しましょう。

#### イ 修正摘果

「幸水」は裂果期を迎えていますので、この期間は摘果を控えて他の果実の裂果の助長を防ぎましょう。

また、裂果期終了後は、肥大不良果、果形不良果、障害果等を対象に修正摘果を行い、品質の向上を図りましょう。

### (3) りんご

#### ア 修正摘果

現在、果実肥大や変形の有無、障害果等の区別が付きやすい時期ですので、製品率の向上に向け、丁寧に修正摘果を実施しましょう。

#### イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂すると、樹冠内部や下部の日当たりが悪化し着色不良の原因となりますので、枝折れ防止も兼ねて枝つりと支柱立てを実施しましょう。

### (4) ぶどう

#### ア 着果管理

ぶどうの着色開始は、果房中の数粒が飛び抜けて濃く着色するのが望ましい状態です。全体的にぼんやりと着色するような場合は、着房過多等が原因と考えられますので、早急に着

房数の見直しを行い、品質の向上を図りましょう。

#### イ 新梢管理

果実品質の向上と新梢の登熟促進のため、7月下旬～8月上旬頃を目安に新梢の摘芯を実施しましょう。なお、摘芯は先端の生長点を軽く摘む程度とします。

#### ウ 水分管理

「巨峰」等は、7月下旬にベレーゾン期を迎えます。ベレーゾン期頃は1日当たりの水分消費量が多くなるため、根の活力を保つとともに、土壤水分を保持するよう心がけましょう。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病 害

##### ア 斑点落葉病、褐斑病、腐らん病

斑点落葉病と褐斑病は、共に高温多雨条件で急増しますので、薬剤防除は10日間隔で実施しましょう。なお、褐斑病の発生が多い園では、二次感染の防止のため7月下旬の防除を徹底しましょう。

また、腐らん病の発生が増加傾向にあります。枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取る若しくは削り取るよう心掛けましょう。

##### イ 炭疽病

現在、重点防除期に当たりますので、発生が多い園では防除を徹底しましょう。また、同病の発生を抑えるため、園周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物は除去しましょう。

##### ウ もも灰星病、ホモプシス腐敗病

収穫間近の中～晩生種が同病の重点防除時期となります。薬剤の収穫前使用規制に十分注意し防除を徹底しましょう。

##### エ ももせん孔細菌病

降水量が多いと二次感染による発病が増加するおそれがありますので、今後とも引き続き注意が必要です。病斑部や発病葉、被害果は徹底してせん除、摘除しましょう。

また、晩生種で本病の発生が多い場合は、7月20日頃または7月30日頃に薬剤の収穫前使用規制に十分注意し防除を実施しましょう。

##### オ なし黒星病、輪紋病

黒星病の発生が多い園では、7月下旬の防除を徹底しましょう。また、輪紋病の発生が見られる場合は、効果の高い薬剤を選択し防除を徹底しましょう。

#### (2) 虫 害

##### ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代幼虫の防除適期は7月5半旬頃と推定されます。本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などの影響が考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

##### イ モモノゴマダラノメイガ

果樹研究所内のモニタートラップによる調査では、第1世代成虫は7月5半旬頃から発生すると推察されます。被害の発生が予想されるモモ園では、7月下旬～8月中旬に防除を行いましょう。

##### ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第2世代成虫の発生盛期は7月4～5半旬頃と予想され、防除適期は7月6半旬頃と推定されます。本種は第3世代からなし果実への寄生が増加するため、例年なしの果実被害が多い地域では、近隣もも園の芯折れの発生状況に注意するとともに、第3世代幼虫以降の防除を徹底しましょう。

##### エ リンゴコカクモンハマキ

第2世代幼虫の防除適期は7月6半旬頃と予想されますので、被害がみられる園では防除を徹底しましょう。

##### オ コガネムシ類

ドウガネブイブイやヒメコガネ等が活発に飛来する時刻は、日没後から約3時間（18時～21時頃）なので、誘殺灯を使用する場合はこの時間帯に点灯しましょう。

カ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表2 主要鱗翅目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成26年7月15日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月18日	7月21日	7月19日	7月26日
平年並み	7月18日	7月22日	7月20日	7月27日
2℃低い	7月18日	7月23日	7月21日	7月29日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 6月26日、ナシヒメシンクイ 6月18日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=22752#gi\\_jyutsu\\_jyohou](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyohou)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>